

～障がいの有無にかかわらず、お互いに思いやり、

支え合う社会をつくるために～



## 火売自治会で「障がい理解を深める研修会」を開催しました

### 研修の概要

火売自治会のご厚意で、地域に暮らす障がいのある人がいかにして地域に溶け込んで生活していくか、というテーマで下記のとおり意見交換会を実施しました。

日時 平成 29 年 2 月 25 日 (土)

19 時 30 分～20 時 00 分

場所 火売公民館

地域の方 35 人ほどにご参加いただきました。

今後も、地域の方に障がい理解を深めていただくため、できる限り多く自治会等での研修会を開催したいと考えています。

### 研修メニュー

研修の概要は、次のとおりです。

#### (1) ともに生きる条例と地域で必要な配慮について

##### (障害福祉課説明)

地域で必要な配慮として、次のことをお願いしました。

- 車いすを押す、高いところにあるものを取るなど必要なときのちょっとした手助け
- 異変があった場合の病院等への連絡など
- 大声を上げたり走ったりなどの行動があったとしても、障がいの特性によるものと理解したうえで対応する。

#### (2) 障がいのある子の親として

##### (講師団講師 大久保 多津子 氏)

実体験に基づき、地域の人に求める配慮などについて説明

#### (3) 意見交換

障がいのある人が地域に溶け込んで生活するために必要なことをテーマに行った。

#### (4) アンケート記入

地域に溶け込むために必要なことなどについて、アンケートで意見を求めた。

### 大久保講師による講義

今回大久保さんからは、知的障がいのある子を持つ親として体験を踏まえ、次のようなお話をしていただきました。

商業施設で声を上げたりしたことで警察に保護された。子どもは障がいの特性でしてしまったことで悪いことをしたわけではないが、結果として迷惑をかけてしまったことで、警察に謝罪しなければならなかった。少し警察に理解と配慮があれば違った対応になったかもしれない。

地域の人をお願いしたいのは、声かけなどは積極的に行っていただかなくてもよいが、いざというときのために見守りをしていただきたいということ。



### 意見交換・アンケートによる意見

意見交換やアンケートで、参加者から多くの意見をいただきました。抜粋してご紹介します。

#### (障がいのある人が地域に溶け込んで生活するために必要なこと)

- ・障がいに対する正しい知識・障がいに対する理解を持つことが大事
  - ・町内の行事など地域の人たちと交流を深める場が必要
  - ・障がいのある人の情報を地域で持っていることが必要ではないか
  - ・障がいのある人も、行事等に積極的に参加すること
- #### (自由意見)
- ・声かけをしていくことで顔見知りになれるよう、みんなまで努力し、協力していきたい。

発行：別府市福祉保健部障害福祉課

E-mail：haw-hw@city.beppu.lg.jp

TEL：0977-21-1413、FAX：0977-22-1780